くるまの ざつがく
CAR TRIVIA



このコーナーではクルマに関する
為になる雑学をご紹介していきます。
意外と知らないことがあるかも!?

VOL.54

早めに交換! スタッドレスタイヤ!

スタッドレスタイヤは、氷雪路でグリップするためにゴムを柔らかくした冬専用タイヤです。スタッドレスタイヤの寿命は「溝の深さ」と「ゴムの硬さ」で見るのがポイント!
冬が来る前に愛車のスタッドレスタイヤをチェックしておいて早めの交換をしておくのがオススメ! タイヤショップの繁忙期である12月よりも前に交換することで、ウインターシーズンよりもお値打ちに交換することができる店舗もありますよ!

1 スタッドレスタイヤの基本豆知識



スタッドレスは、雪道・凍結路で滑りにくくするために開発された冬専用タイヤです。主にゴムの柔らかさと、細かい溝(サイプ)で、滑りの原因となる水膜を減らし路面に密着します。
以前主流だったスパイクタイヤは路面を傷める粉じん公害のため禁止され、現在はスタッドレスタイヤが一般的。スタッドレスタイヤの名前の由来は、「スタッド=鋲」が「レス=ない」タイヤで、スパイクタイヤの代替として普及しました。
低温でも硬くなりにくいゴムを使い、氷や雪に密着してグリップを確保、トレッドに細かい切れ目(サイプ)やブロックパターンを多く入れ、エッジ効果で氷や圧雪を噛みます。氷上で滑る主因である「水膜」を吸い上げたり排水したりして、タイヤと路面を直接触れさせます。



2 交換時期・寿命の目安

タイヤの法律上の寿命は残り溝1.6mmですが、スタッドレスタイヤとしてはもっと早く性能低下します。多くのメーカーは、溝が約50%摩耗したら交換目安としています。
(ブロック間の「プラットフォーム」で確認)。使用年数だけでなく、ゴムが硬くなってきたら雪道性能は大きく落ちるため、専門店で硬さのチェックを受けると安心です。

3 タイヤ保管のコツ



直射日光・雨・水・熱源・油を避け、風通しのよい冷暗所で保管します。室内保管では床に段ボールなどを敷き、屋外なら専用カバーで雨・紫外線を防ぐと劣化を抑えられます。
長期保管時は空気圧をおよそ半分に下げ、ホイール付きなら横置きにして接地部の変形を防ぐ方法が推奨されています。



4 ちょっとした豆知識

空気圧は基本的に標準指定値が適切とされます。ホイールとセットで用意すると、毎シーズンの脱着が早く、タイヤへのダメージも少なく済みます。店舗での交換の際、雪が降ってからでは品薄や交換待ちが発生しやすいので、秋のうちに準備しておくと安全かつ選択肢も多くなります。
また、高速道路では「冬用タイヤ規制」時は、スタッドレスタイヤなど冬用タイヤか、タイヤチェーンが必須です。「チェーン規制」になると、スタッドレスタイヤ装着車でもタイヤチェーンが必要になりますので、雪の多い地域に行く際はスタッドレスタイヤだけではなく、タイヤチェーンも準備して行きましょう。